

みなとみらい21地区3Dアプリ

URではDX推進の基本的な考え方である「DX推進方針」とその行動計画である「DXアクションプラン」を定め、DXを推進しています。これらの方針等に基づき、URは、職員のデジタルリテラシーを高めるとともに、業務や組織を変革していく人材の育成と、DXの活用を通じ、まちづくりの高度化やお客様の暮らしの満足度を高める新たなサービスの創出を目指していきます。

DX施策の推進

事例紹介

まちづくりプロセスの高度化、効率化の実現 ～3D都市モデルによる景観シミュレーション・VR体験等～

3D都市モデルなどまちづくりデータの可視化を通じ、関係者間の円滑な合意形成や設計・工事業務の生産性向上など、まちづくりの高度化、効率化を目指しています。

その一例として、みなとみらい21地区やうめきた2期区域（グラングリーン大阪）の3D都市モデルを作成。上記の用途に加え、海外要人視察対応や、ワークショップ・VR体験等に活用し、UR事業に対する理解を促進しました。

なお、うめきた2期区域の3D都市モデルは、「3D・VRシミュレーションコンテスト」において、内容や用途について高い評価を受け、グランプリ（最優秀賞）を受賞。同コンテストは国、民間企業等の優れたVRデータ作品を表彰してきた、20年以上続く歴史あるコンテストです。



うめきた2期区域（グラングリーン大阪）の3D都市モデル

事例紹介

Open Smart URの実現 ～IoT、AI等を活用した新たな住環境やサービスの提供～

Open Smart UR
生活モニタリング住戸

「Open Smart UR」とはIoTやAI等の情報技術を活用して、魅力的で安心な暮らしを提供するプロジェクトです。その実現に向けて、技術的な検証や目指すべき環境づくりの検討を進めています。

URまちとくらしのミュージアム（東京都北区）にある登録有形文化財の保存住棟において、IoTやAI等を活用した「生活モニタリング住戸」を整備しました。住戸内に設置されたIoT機器を連携させることにより、それらを1つの端末で操作することができます。また、同住戸に設置した温度、湿度、気圧、CO₂等の様々なセンサーからデータを取得・分析し、活用方法の検討と技術的検証を進めています。

DX人材の育成

全職員のデジタルリテラシー底上げを図るため、DXマインド・スタンスの啓発コンテンツ配信とリテラシーチェックを行ったほか、昨年度に引き続きITパスポートの資格取得を推奨しました。

また、DXを活用し、経営課題の解決や新しい価値創造に係る施策を企画・立案できる「デジタルコア人材」の候補職員を「DXプロデューサー」に認定。DXプロデューサーに対し、専門性向上のための研修を実施しています。